

方法論的な考察を行な、た昨年の発表・「景観デザインの方法論的考察」を受けて、本年は我國の伝統的デザインの事例を分析した結果を、景観デザインを支える車の両輪の一つである「関係の操作による景観のデザイン」として紹介したい。

1. 視点による景観のデザイン

高山大嶽・神奈備山・はやま・借景の対象の山に対する視点高地を分析した結果、視点選定を規定する最大の要因がデザインの目的にあることが明らかになった(図1.)。パターン図として示したように信仰の視点では山に密着し、風景鑑賞の場合には対象から「ひき」とと、展望の場合には山と対等の立場になったため大きな比高な視高にとられる。結局、主対象としての山と視点の関係づけの本質は対象に対する水平方向の空間的な「ひき」と、垂直関係としての優越性にあると言える。図2.は我國において景観の主対象たり得た4つのタイプの山のスケールを比高として提えたもので、最低条件として50~100の比高が一つの目安となり、里山と高山・奥山の分岐点もスケールの的に明瞭となった(300~500)。景観の観点から山のスケールを判断する際の基礎データを提出したと言えよう。

2. 境界による景観のデザイン

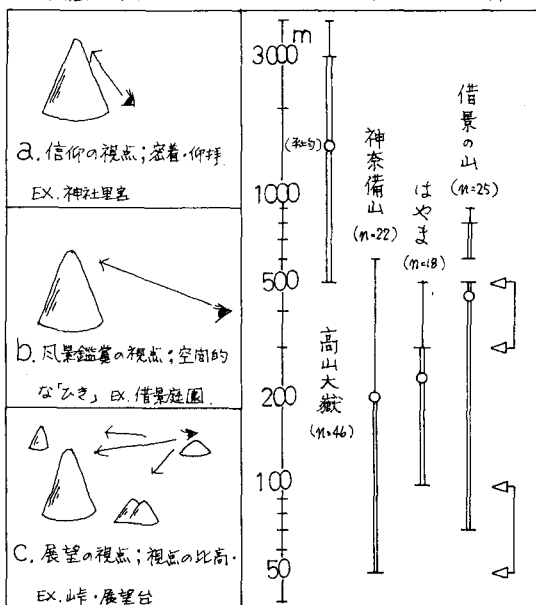
山を対象とした借景及び池を境界に活用した浄土式の分析結果の一部を図に示す。浄土式庭園における水面の役割は「浄土」を視覚的には獲得可能とし、行動的には拒絶する所にある。又池の奥行は対岸の堂前面の空間を適切なヒューマンスケールに位置づけていることが明らかになった(一例を除いて対岸は22以上で顔の表情は見分けられないが、25以下で動作を識別できる範囲にある)。借景の庭の奥行は10~30に集中し(45%) 100以上の大庭園を除いた平均は約29である。小スケールの境界による内・外要素の関係づけの目安の数値を示すものと言える。更にテキストアの見易さを規定するM.T.F.概念を山腹の樹林に適用した結果、借景には山の樹林と刈込や樹木による庭のテキストとが

連続するタイプと連続しないタイプが存在することが判明した。又樹木を基準に対象の見え方(表情)に着目して距離指標を再検討し、樹木域・テキストア域・地形域の視距離分割を得ることができた(図6.下欄)。これらの分析の結果境界による関係づけの本質が、視覚及び行動上の連続性の操作にあることを明らかにした(表1.参照)。

3. 主対象による景観のデザイン

小石川後樂園、駒込六義園を中心とした分析によって得られた廻遊式のデザイン法を図7.に示す。このデザイン法は庭園内の対象に意味を付与することによって景観体験を豊かにすることを狙ったもので、八景式とともに主対象割付けによるデザイン法の典型と言える。一方、主対象によるデザイン法には国立公園の選定に代表される抽出型の方法があり、その特徴は一定の景観基準に照して主対象を選び出すことで、近代的なデザイン法と言える。又後者に属すると考えられている名勝の指定は、その基準がいわゆる「著名」にあることを明らかにした。表2.にまとめた事例は人間の

図1. 視点のタイプ(山岳) 図2. 山のスケール(比高)



知性的な側面が勝ったデザイン法で、主対象選定の一の方の柱には人間の感情がある。前述した信仰や鑑賞の対象となっていた山や水面などがその例で、対象の備える景観的な卓越性が人間を魅きつけて、自ら主対象となる場合である。主対象によるデザインの本质は、周囲の要素に対する視覚的、意味的な卓越性と主対象相互の有機的な関係だけによる景観の統合化であるといえることができた。

4. 関係の操作による景観デザインの手とめ

以上、紙面の都合で分析結果の極く一部しか紹介できなかったが、以下に結果の要点をまとめておきたい。

我々の伝統的な実例を分析した結果、関係のデザインは視点を選定することによってあるいは視点場（特に境界部分）主対象を他の景観構成要素との関係において巧みに操作することによることが明らかになった。筆者の景観把握モデルによる景観の捉え方の有効性を検証することができたと考えられる。又このモデルによつて得られている景観の効果を統一的に捉えることが可能となり、（図示した空間的パターン）必要に応じた定量化を構成要素間の関係指標（例：視距離、比高）によって行うことができる。又、景観のデザインを行なわしめた契機は、人間の宗教的な体験・美・快適性の追求であり、デザインの目的はそれらの体験を保障する景観の創出にあったと理解できる。対象を創造することなくデザインを行なうことのできる関係の操作によるデザイン法とは景観に固有の方法であり、自然に調和した無理ない点に方法上の最大の特徴がある。しかしその反面、実用性が要請する日常的な場における対象の機能との関連を考慮した取扱法に有効な示唆を与え得ない限界を指摘することができよう。

（参考文献は多数のため省略）

図3. 浄土式の空間パターン

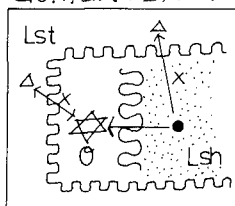


図5. 借景の空間パターン

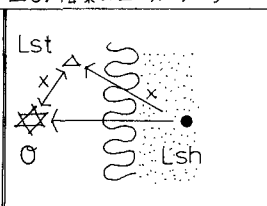


表1. 境界のタイプ

行動	連続	不連続
視覚	(境界線あり)	境内・参道林 踏地の土垣 防火線口ボタ
所ざす	鳥居 踏地の門	浄土式庭園の地 借景庭園のみぞり なす
つなぐ		イザヤ庭園のハバ

表2. 主対象選定の方法

方法	実例	基準となる概念
割付け	・八景式 ・廻遊式の 対象	マツクナンバー(8) 京都御所のマツク 名勝、文藝作品、所蔵
描出	・名勝 ・日本名山 ・国立公園	著名な 山の景、権威、位階など 紋図を代表する 大風景

図7. 廻遊式のデザインパターン

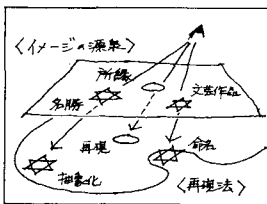


図8. 園芸園遊先法のパターン

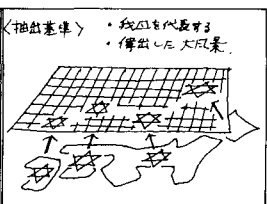


図4. 浄土式庭園の興行

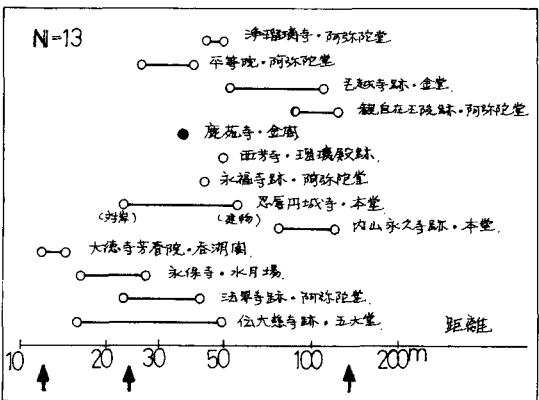


図6. 借景庭園の興行と山までの距離

